

小美玉市の歴史を知ろう⑬ 小川素鷲神社と祇園祭

「祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり…」で始まる有名な軍記物を覚えている方も多いでしょう。平家の盛衰を描いた『平家物語』です。冒頭部分の祇園精舎とは、仏教発祥の地、古代インドにあったとされる寺院のことです。この祇園精舎の守護神である「牛頭天王」は、疫病を流行らせる神とされています。その「牛頭天王」を慰め、和ませることで疫病を防ごうとしたのが祇園信仰の始まりで、旧暦六月に例祭として定着したのが祇園祭です。

日本古来の神と外来宗教の仏教が結合した神仏習合では、「牛頭天王」は、「天照大神」の弟神である「建速須佐之男命」と結びつきました。明治の神仏分離令後、全国にある天王社は、「建速須佐之男命」を祀る神社となり、社名も改称されました。現在では、京都祇園八坂神社などを総本社として、祇園神社、素戔鳴神社、祇園神社等となっています。



素鷲神社

「建速須佐之男命」を祀る小川素鷲神社は、享祿二年（一五二九）、園部城主の客分であった橋本源左衛門、孫左衛門兄弟が園部川の河口で拾い上げた牛頭天王の御神体を祀ったことに始まります。その翌年には、園部氏の庇護を得て、天王宮と命名され、園部城の守り神として城外に祀られました。天保十一年（一八四〇）、神仏習合の社名であること理由に現在の社号に改称しましたが、現在でも親しみをこめて、「小川の天王さま」と呼ばれています。

小川の祇園祭は、旧暦の6月1、7、11、13日の4日にわたることから、「四度の

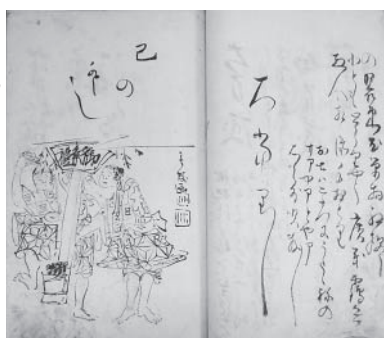
まつり」とも称され、伝統ある神事が連綿として継承されています。江戸時代の祇園祭は、六町（横町・大町・川岸町・田宿町・下田宿町・上宿町）で執り行われていました。（現在は分割した町があつて九町に増加）そして、横町・大町・中田宿町・上宿町の頭屋は、宮司や総代とともに四度のまつり（神事）を取り仕切ります。ちなみに各頭屋の担当日は、御神輿が神社に入る「お山入り」のあとに、「くじ引き」にて決定されます。

神前での祈りや神に伺いを立てる神事のほかに、江戸時代以来、各町内では、趣向を凝らした祭事を催していました。小川資料館には、安永八年（一七七九）〜明治三年（一八七〇）にかけて、横町代々の世話人が引き継いできた古文書『横町覚書』が所蔵されています。この古文書には、豊富な挿絵とともに、催し物などの詳細が記録されており、当時の祇園祭が垣間見られる貴重な資料です。

この古文書をたよりに、江戸時代における祇園祭の様子を見てみましょう。安永八年（一七七九）、横町では、桃太郎と二十七人の鬼の仮装行列を催し、非常に評判が

良かったとあります。また、「田宿・田町両町の行列八〇〇九〇人と川岸町の唐代の名僧に仮装した行列が天王祭で乱れ合い口論となりました。このため、上宿町と横町が仲介して夕方まで預かり、夜になって解決しました」との記載が残されています。各町内は、競い合うように祇園祭を盛り上げていました。その盛り上がりよそに、各町内の負担は大きいものとなり、弘化二年（一八四五）の祭礼以後には、二町が合同で一つの催し物を出すよう取り決められました。やがて、九町での年番制となり、現在に至ります。

この『横町覚書』は現在、小川資料館で開催されている参考展Ⅰ「小川素鷲神社と祇園祭」にて展示されています。



横町覚書「己のかかし」挿絵
寛永8年（1796）



棚一枚でもお気軽にどうぞ！

株式会社 **笹 光 建 設**

〒311-3416 茨城県小美玉市与沢 253-37
TEL 0299-54-0618 FAX 0299-54-0421

www.sasamitu.co.jp/

ささみつ

検索

新築 / 増改築 / 小さなリフォームなど



人と自然が調和する
地域づくりを応援します

MEIWA
株式
会社

明和技術コンサルタンツ

代表取締役 戸 塚 一 夫

〒311-3414 茨城県小美玉市外之内398番地の1

TEL 0299-54-0009

http://www.meiwagijutsu.com/